

報道関係者 各位

2024. 3. 29
< 配信枚数3枚 >

学園ビジョン R2030 の実現に向け「イノベーション・創発性人材」の育成を目指し
立命館データプラットフォームと立命館オリジナル生成 AI を最大限活用

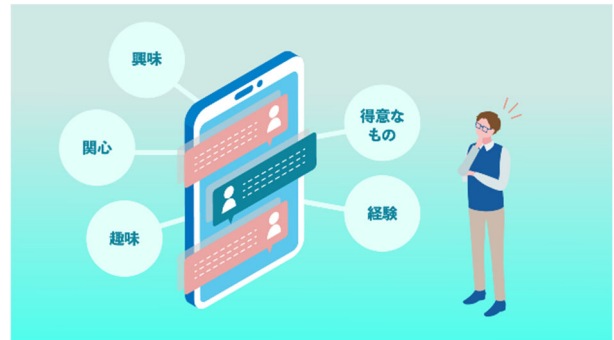
立命館学園における「コンピテンシー」の策定

立命館学園（総長：仲谷善雄、以下、立命館）は、「イノベーション・創発性人材」の育成に向けた新たな一歩として、「コア・コンピテンシー」および「コンピテンシー」を策定し、2025 年度より「コンピテンシー・フレームワーク（コンピテンシーを運用する環境・枠組み）」の試行的運用を開始します。

本件のポイント

- 立命館は、「イノベーション・創発性人材」の育成に向けて、「コア・コンピテンシー」および「コンピテンシー」を策定し、2025 年度より「コンピテンシー・フレームワーク」の試行的運用を開始する。
- 「命を立てる」をコア・コンピテンシーとし、小学校から大学院までの一貫した教育を通じ、自己省察を繰り返しながら自身を相対化する際の共通指標として 8 つのコンピテンシーを設定する。
- 生成系 AI 活用の新たなステージとして、立命館データプラットフォームを基盤とする立命館オリジナル生成 AI (R-AI (仮称)) と人的支援を掛け合わせることで、児童・生徒・学生・大学院生（以下、学習者）が、自身の成長を可視化し、学び続ける仕組みを構築する。

このコンピテンシーを用いた、コンピテンシー・フレームワークは、人的支援とシステム的な支援を適切に組み合わせることで、学びの可視化、自己省察の深化を促し、学習者が自らの成長を主体的に創造することを目指すものです。学習者のコンピテンシーに関わるエピソードを「立命館データプラットフォーム」に蓄積し、それらを「立命館オリジナル生成 AI (R-AI (仮称))」と連携した上で、人的支援と有機的に掛け合わせることで、学習者への助言等（例えば「学部選択」「探究課題」「研究室選択」「就職活動」等）を行うことを想定しています。なお、AI によって生成されたアウトプットはそれ自体が答えではなく、ひとつの素材として、学習者は自身の成長を可視化し、自ら考え、判断することが重要です。そのため、人的体制の整備・拡充についても同時に検討を進めることで、教職員の新たな働き方の提案も想定しています。



本リリースの配布先： 京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、
文部科学記者会

- 取材・内容についてのお問い合わせ先
立命館大学広報課 担当：池田
TEL.075-813-8300

●コンピテンシー導入の背景・目的

立命館は、学園ビジョン R2030 では、「イノベーション・創発性人材」の輩出を目指しています。これは、学びや研究によって個を高度化・相対化できる人材を意味し、他者との相乗効果により、新たなイノベーションを生み出せる能力を持った人材の育成を目指しています。

このビジョン実現のため、学園内では、学習者の成長を促す新たなコンピテンシー・フレームワークの必要性を確認し、実現に向けて立命館におけるコンピテンシーを策定しました。小学校から大学院までの一貫教育や多様な専門・研究分野を融合した統合的な学びの価値を概念化し、学習者の自己省察と主体的な学習を促進するために、学びの軌跡を可視化します。また、教育課程とカテゴリー（正課・準正課・正課外）および学園全体（小学校から大学院まで）の視点を統合し、学習者を支援する仕組みを構築します。

●コア・コンピテンシーおよびコンピテンシーの策定

立命館は、『学びによって伸張する「資質・能力」』をコンピテンシーとして定義し、コンピテンシーに通貫するものとして、「命を立てる」をコア・コンピテンシーと決めました。学習者それぞれの学びの意味は多様ですが、「命を立てる」を「自分自身が何者であるかを知るために、学び続けること」と捉え、そのために自己省察を繰り返しながら自身を相対化する際の共通指標として「RITSUMEI」の頭文字を取った8つのコンピテンシーを設定しました。そして、各コンピテンシーに、学習者の成長の観点として「わたし」「あなた」「世界」の3つの視点を掛け合わせることで、コア・コンピテンシーおよび「創発性人材」の概念を重ねながら、立命館における学びの可視化、成長の促進を図っていきます。

コア・コンピテンシー：「命を立てる」・・・自分自身が何者であるかを知るために、学び続けること				
コンピテンシー		わたし	あなた	世界
R	Resilience (しなやかさ)	困難な状況や失敗から学び、自己改善できる	他者と共有する困難に立ち向かい、その過程で自己や他者の成長を促進できる	社会の変化や挑戦に対応し、自身の役割を適応させることができる
I	Initiative (自発性)	自己決定と自己推進の力、自分自身で目標を設定し達成することができる	他者との協力関係の中で、新たな方向性を示すことができる	社会のニーズを察知し、それに対応する新たなアイデアや行動を提供することができる
T	Teamwork (チームワーク)	自身の役割認識に基づき他者との協力に基づく作業を行うことができる	チーム内の調和と生産性を高め、チーム全体の目標達成に貢献することができる	社会的なコンテキストの中で他者と協働し、共同の成果を生み出すことができる
S	Self-efficacy (自己効力感)	自己効力感、つまり自身の能力を信じ、特定の目標を達成するために必要な行動を起こせるという確信を持つ	他者とのインタラクションにおいて、自身の影響力と貢献に自信を持ち、それを主張することができる。また、他者にも自己効力感を持たせることができる	社会的な課題や職場の要求に対して、自身の能力を適用し、適切な行動を起こす自信を持つことができる
U	Understanding (理解力)	新しい知識や情報、人間や文化に接し、科学的合理性に基づいて理解することができる	他者の視点や意見を理解し、相互理解を促進することができる	社会的な複雑性や多様性を理解し、それに適応することができる
M	Multitasking (マルチタスキング)	複数のタスクが組み合わされた複雑な課題を効率的に管理し、期限内に達成することができる	チーム内でのタスクの分担と調整、複数のプロジェクトを一緒に進行させることができる	多様な責任と要求をバランス良く処理し、期待される成果を提供することができる
E	Empathy (共感力)	他者の感情や状況を理解し、それに対して適切に反応することができる	他者の視点を尊重し、共感を通じて強い関係性を築くことができる	社会の中で多様な経験や視点を理解し、より公平で包括的な社会を形成することができる
I	Innovation (変革力)	新しい思考や手法を開発し、問題解決に向けた創造性を発揮することができる	他者との協力を通じて新たなアイデアや解決策を生み出すことができる	社会の課題に対する新たな解決策を提供し、社会進歩に貢献することができる

●立命館での AI 開発について

立命館は、2023 年 8 月に日本マイクロソフト株式会社と連携協定を締結し、2024 年に大阪いばらきキャンパスに教育機関初の「Microsoft Base Ritsumeikan」を開設します。この連携協定のもとで、立命館オリジナル生成 AI(R-AI(仮称))の開発を進めます。

また、立命館では、デジタルを活用した新しい教育手法開発のため、2022 年には「教育開発 DX ピッチ」を開催しました。この受賞チームは、外部企業と連携を深めながら教育分野における DX を推進しています。この取り組みの一環として、AI 技術を用いた学習者支援システムの開発にも力を入れており、コンピテンシー・フレームワークに組み込めるよう開発を進めています。

<日本マイクロソフト株式会社との協定締結 <https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=3278>>

<立命館大学 教育開発 DX ピッチ <https://www.ritsumei.ac.jp/itl/2022DXpitch/>>